

令和2年度 自己評価報告書

学校法人 石井学園
岐阜調理専門学校

1 学校の教育目標

本校は教育基本法及び学校教育法並びに調理師法の規定に基づき、調理師に必要な基礎的・基本的な知識と技術を身に付けるとともに、教養の向上と人格の陶冶を図り、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

2 本年度定めた重点的に取り組む事項

(1) 社会人としての基本的な生活習慣の確立

- 「挨拶ファースト」(授業においては開始・終了時の挨拶の励行、職員室・教室入室時、対外来者)
- 遅刻指導の徹底 家庭連絡の徹底と全職員共有
- 掃除指導の徹底

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応(生徒の安全と学習権の保証)

- カリキュラム、年間指導計画の柔軟な対応
- 施設設備の対応
- 生徒の健康管理
- 調理実習の在り方
- 職員と職場の健康管理と安全
- 外来者への対応

(3) 技術検定の検定基準の明確化

- 和食、洋食、中華、製菓の評価基準の明確化と検定の指導方法の改善

(4) 資格指導の充実

- 2年養成科(製菓調理コース)の製菓衛生師の合格率アップ
- 全ての検定に全員合格を目指す。

(5) 学生募集

- 体験入学募集にSNSの導入(LINEの友達機能による)
- 学校ガイダンスの充実
- 高等学校との連携強化(出前授業の充実、生徒・高校教員の体験講座の充実)
- 体験入学の中身の検討と学生・保護者個別相談会の実施

✕新型コロナウイルス感染症のため、当初の計画どおりにはいかず、国や自治体の指示等に沿って、その都度対策をしながらの学校運営であった。主な実施事項を下記にまとめた。

○カリキュラム、年間指導計画等の柔軟な対応

- ・ 4 月、5 月の休校によるカリキュラムの再編成
夏季休業等長期休業期間の短縮、校外研修の時期見直し、海外研修の中止、卒業式の時期変更等により、必要授業時間の確保をした。
- ・ 休校中に動画作成と配信を複数回行い、家庭学習の成果を学校に返信させた。
- ・ 5 月下旬に登校日を設定（各クラス別日、最大 5 0 分）した。
- ・ 体験入学（高校生）5 月、6 月分は中止した。
- ・ 対外的なコンクール等の開催が中止となり、参加はしなかった。

○施設設備の対応

- ・ 教室の密を避けるため、教室内のパーテーションを撤去、これに伴い授業を受ける教室の変更をした。
- ・ 教室内机列を最大限に離して設置し、教壇と生徒席の距離も確保した。
- ・ 授業中は常に扉開放、突き当りの 1 年養成科教室前にはサーキュレータを設置した。
- ・ 各教室に空気清浄機、サーキュレータを設置。廊下にも大型サーキュレータを設置した。
- ・ 生徒の会社説明・面接のオンライン化に伴い、そのためのパソコンを 5 台導入。今後のオンライン授業でも使用可能とした。

○生徒の健康管理（学校生活におけるコロナ感染症対策）

- ・ 校舎入室場所及び教室前に手指用の消毒アルコールを設置した。
- ・ 年度当初（6 月）には、クラスごとに、毎日、生徒一人一人の健康チェック（3 項目）ができるシートを作成し、実施した。
- ・ 上記の健康チェックシートを、生徒個々の「健康チェックカード」に切り替え、体温をはじめとする 6 項目を休日も含めて記述させ、職員が毎朝検印した。（11 月～）
- ・ 生徒全員にマスク配布・着用指導、職員もマスク着用にて授業をするよう徹底した。非接触型体温計を各クラス分設置（各クラス 1 本+職員・外来者用 計 5 本）した。
- ・ 生徒掃除の項目に「教室やトイレのノブ、ドア、ロッカー等の拭き掃除及びアルコール消毒」をすることを設定した。
- ・ 更衣室横の非常扉、西非常扉を常時開放とした。（外気の入入れ）
- ・ 近距離での会話や大声での発声を控えるなど（含 食事中）、学校生活の中での行動に対

する注意喚起を行った。

- ・家庭を含めた学校外の生活の中で、密室・密集・密接の場所（コンサート等）を自ら避ける自主性を喚起させるため、適宜、文書の配布、掲示、LINEによる啓発をした。

○調理実習においては、以下の指示等をした。

- ・手洗い等啓発文書の掲示と実習前の手洗い指導の徹底。
- ・調理中はマスク着用、生徒は必要以外のことは話さない。
- ・最初の指導者によるデモは、生徒たちが密にならないように配慮する。

半分は師範台に集合、半分は映像で視聴する。

マスク等のため、声が聞き取りにくい場合マイクを活用する。

- ・一人当たりの分量を少なめとする。
- ・取り分けをしなくて済むようなメニュー及び調理法を計画する。
- ・2-1、2-2が昼食時教室で重ならないようにするため、午前中の実習後はそのまま実習室で食することとする。
- ・その際、しゃべらず、同一方向を向く、もしくは対角線上の席で食す。
- ・調理室内で同一方向等で食することができない場合、別室（サービス室、サロン）を活用する。その際時間配分に配慮する。
- ・実習が定時に終了できるよう、食する時間、清掃の時間等計画する。
- ・午後から実習がある場合は、その実習場所を昼食(弁当等)会場とする。

★これらのことが徹底できない場合は、調理したものは食さず廃棄とすることを指示した。

○職員と職場の健康管理と安全

- ・非常勤の講師を含め、勤務する全職員に対し、個別の健康チェックカードを作成・配布し、休日も含めた記入を徹底した。
- ・授業者のためのマスク、フェイスシールドを確保・配布した。
- ・職員室、講師控室、サービス室に飛沫防止ボードを設置（20基）

○外来者への対応

- ・外来者のうち15分以上の会話が必要な場合、記名、体温チェックを行う。

○職場でコロナガードを専任し、コロナガードを中心に感染予防に努めた。

○体験入学

- ・休日の高校生対象の体験入学においては、12月から、参加高校生全員に各高校で使用している健康チェックカードを当日持参させ、本校で確認する。提出できない参加者は入場させないことを周知、実践した。
- ・同伴する保護者に対しても、同様に健康チェックカード（体験実習前2週間分）を記入・提示（会食を伴うので）を依頼した。

3 評価項目の達成と取組状況

評 価 基 準
適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	自己評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか)	4
・学校における職業教育の特色は明確か。	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4

① 課題等

○県内で唯一の調理と製菓を学べる専門学校で、本校に対する業界からの期待が非常に大きい。業界の期待に応えられるよう、使命感を持って、学生に力をつけ、社会に貢献できる人材の育成を図っていかなければならない。

特に、同じ調理現場であっても職場（専門店、ホテル、集団給食等）によって、勤務や仕事内容がかなり異なるため、多様な進路先に対応できるよう、幅広い分野での基礎的な技術の習得が必要である。

○本校理念等の保護者への周知の程度が測れていない。

② 今後の改善方策

○学校独自で行っている基礎技術検定について、その基準をさらに明確化し、生徒がどこが良くないのか、どこを直せばよいか分かるような指導とする。

○本校の理念等の周知は、HP の充実と SNS 等を駆使した方法をさらに深める。

③ 特記事項

○基礎検定は、和食、洋食、中華の3つ(2年養成科においては「製菓」を加えて4つ)の検定があり、それぞれ3項目ずつ行っている。一昨年度までは3項目同時に指導していたが、小項目ごとに検定を行っている。これにより、学生の負担も軽減され、技術目標も明確化され、指導もしやすくなった。また、卒業検定も含めて、検定基準を「全調協実技検定」を参考に、客観性を高め定量的な基準とした。

(2) 学校運営

評 価 項 目	自己評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
・運営方針や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。	3
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3
・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3
・教育活動等に関する情報公開が適切にされているか。	3
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3

① 課題等

○学校運営に関しては職場の本務職員が 11 名と少ないため、意思統一は図りやすいが、非常勤職員との連携をうまく図り、学校運営について理解をしていただく必要がある。例年は、年度当初と年度末の 2 回開催される講師連絡会議にて「今年度の方針」と「反省」を行う機会を設定していたが、本年度については、感染症対策として資料の送付及びメールにて連絡をした場合もあった。

② 今後の改善方策

○毎週水曜日の朝に職員連絡会を持ち、コロナ対応に加え、その週の行事の確認と、各クラスの学生の遅刻・欠席等の動向を担任から報告し、職員全員で情報を共有した。
○非常勤講師に対しては学生の動向等をこまめに報告し、連絡・連携を密に図る。

③ 特記事項

○毎週木曜日の放課後は原則生徒実習を行わないようにし、適宜職員会議を開催。
コロナ対応を始め、朝会では時間が足らず話し合えないことや行事の詳細について話し合うことができ、効果が上がっている。

(3) 教育活動

評 価 項 目	自己評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4
・教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
・キャリア教育・実践的な職業活動の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工	3

夫・開発などが実施されている。	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価は受け入れているか。	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保をしているか。	3
・関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3

① 課題等

- 学校目標は明確であり、入学する学生もしっかりとした目的を持っている。また、教育課程も国家資格(調理師免許及び製菓衛生師)取得を踏まえた内容で、学生の実態を考慮した学校設定科目等も設けている。
- 年度当初、授業内容のシラバスを用いて学生ガイダンスを行っている。その際、卒業・進級に関する規定も学生に示し、理解させている。ただし学生の多様化により、全てを理解できる者ばかりではないので、粘り強く行う必要がある。

② 今後の改善方策

- 多様な課題を持っている生徒が多いことに鑑み、その都度当該生徒には丁寧に説明・指導していく必要がある。

(4) 学修成果

評価項目	自己評価
・就職率の向上が図られているか。	3
・資格取得の向上が図られているか。	4
・退学率の低減が図られているか。	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

① 課題等

○本年度求人は昨年度比で71%であり、苦戦を強いられた。また、東京をはじめとする大都会からの求人も多く、地元希望の生徒に不利であった。

○春先に学校に届く求人票を閲覧するのは、休校明けの6月からで、取り掛かりはじめるが遅かった。本年度の本校内定率は約92%である。

○令和2年度本校における資格指導の結果は、

▶ 2年養成科2年

- ・製菓衛生師試験 35/36 (合格者数/受験者数) 昨年度実績：20/22
- ・フードコーディネーター3級試験 36/36 昨年度実績：22/22

▶ 2年養成科2年、1年養成科

- ・食育インストラクター試験 58/59 昨年度実績：43/44
- ・技術考査試験 54/56 昨年度実績：38/43

○退学者は2月現在2名(昨年度4名)で少なく済んでいるが、いずれも入学後、学校の学習に興味・関心が持てなくなり、退学に至った。

その際、校長、副校長が担任とともに保護者と面談をし、今後の進路を確認することを心がけている。

② 今後の改善方策

○本校の資格指導に対する指導方針は、受験資格のある生徒に対しては、卒業後の進路に関係なく、全員の生徒に取得を目指させており、「目標に向かって努力する姿勢」の獲得には大いなる寄与をしている。今後も継続したい。併せて、資格の持つ意義や授業での指導方法を更に工夫改善をしたい。

○就職活動への早めの取り組みと、昨今、SNSによる求人情報が有用なものとなっているが、その情報については職員と生徒の共有が必要である。

③ 特記事項

- 本校ではホームルーム担任制を取っており、朝のホームルームで遅刻・欠席をした生徒に対しては全て個別に担任から電話確認をしている。
- ただし、事前に自ら連絡をいれない生徒が散見され、粘り強くマナーとして指導し続け、年度末には概ね連絡するようになってきつつある。

(5) 学生支援

評 価 項 目	
・就職に関する支援体制は整備されているか。	4
・学生相談に関する体制は整備されているか。	3
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3
・学生の生活環境への支援は行われているか。	3
・保護者と適切に連携しているか。	4
・卒業生への支援体制はあるか。	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4

① 課題等

- 多くの機会を通して進路ガイダンスや個別相談をこまめに行う必要がある。
- また、経済的に苦しく、奨学金やアルバイトに頼る生徒も多くいる。

② 今後の改善方策

- 本年度は名古屋等で各企業が行う対面式ガイダンスが少なく、オンラインでの開催が多かった。オンラインガイダンスはSNSからの発信が多く、常に高いアンテナを持たせる指導も必要となってくる。
- 最近では求人票を閲覧しない生徒もあり、SNS で探す傾向がある。学生と企業間だけで話が進むこともあるので、進路相談体制の再構築をする必要がある。
- 進路指導については、本校の教員のみではなく、企業の採用担当者等外部講師を招聘した進路講話の実施を多く設定した。今後も継続したい。
- 学生の学費負担が少しでも軽減されるように、2年前から、高校生を対象に2つの新たな制度を導入した。

・「1人暮らし支援制度」

親元を離れアパート等で1人暮らしをする学生に対して、これまで年間6万円を、平成3年度入学生から年間10万円とした。

・「特別入学サポート制度」

体験入学に参加し、本校受験を予定している生徒に対しては、「特別入学生サポート生」として、入学金の5万円を免除する。

③ 特記事項

○本年度初めて、カウンセラー（診療心理士）に相談できる機会が確立された。悩みを持つ生徒にとって大変有意義なものと考えている。（グループ校の啓晴高校に依頼。）

○進路意識の醸成として、会社の人事担当者などを招聘する機会を複数設定した。

6社本校に招聘（放課後、時間内）グルメキャリアと連携

→シダックス、東海フーズ、コムライン、SORA グループ、リゾートトラスト

これをきっちりにつけ、就職活動が活発になり成果あり。

○国の新しい修学支援金制度が開設され、本校は国から認定された確認校である。

これにより、一定の条件により、給付型の奨学金を得ることが可能になった。

本年度該当者は11名。

この制度は高校生も対象であり、経済的な理由で本校入学を断念せざるを得ない生徒にとっては有効な制度である。令和3年度 1年生5人、2年生6人

○本校独自の「1人暮らし支援制度」を利用している生徒は2名（高山市）

3年度入学生の中では、該当者は6名の予定で、年間10万円が大きな支援になっていると考えられる。

「特別入学サポート制度」を利用して入学する生徒は57名。3年前から実施した新制度であるが、その成果が見え始めている。

今後も、体験入学、ガイダンス、高校訪問を通して支援制度を周知していきたい。

（6）教育環境

評 価 項 目	自己評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4
・学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備がなされているか。	3
・実習室の衛生管理はしっかり行われているか。	4
・実習室、普通教育、自習室等施設内の空調設備は十分か。	4
・防災に対する体制は整備されているか。	4

① 課題等

○海外研修としてフランス研修を計画していたが中止。

② 今後の改善方策

○パンデミックの中、海外研修の在り方の検討

調理専門学校なので、研修の柱の一つとして、調理実習の体験を位置付けたい。

今後は国内研修も視野に入れたい。

○これまでの海外研修実施状況

R2：コロナで実施せず R1：14人 H30：10人 H29：実施せず H28：実施せず

③ 特記事項

○昨年度、実習中の事故等に備えAEDを校舎内に設置した。

岐阜市消防本部から講師を招聘し、AEDを使った救命講習会を開催（90分）し、参加者全員が救命入門コース参加証を配布された。（職員10名、生徒一人）

○年1回、岐阜駅構内の利用施設を対象とした防災訓練に職員が参加。（3名参加）

○今年度は実習中の火災や事故は一件も発生しなかった。

○火災発生時の自主防災や避難経路の教室内掲示をするなど、再確認を徹底的に行い今後も継続する。

○コロナ感染症拡大があったが、本校はもともと衛生管理（食中毒対応 ノロウイルス）を徹底しており、手指消毒等スムーズにできた。

（7）学生の受け入れ募集

評価項目	自己評価
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3
・学納金は妥当なものとなっているか。	4

① 課題等

年度ごとの入学生一覧

	H28	H29	H30	H31	R2	R3
1年養成科	32	29	32	28	24	32
2年養成科	32	25	24	40	23	40
合 計	64	54	56	68	47	72

○2年度入学生の入学者は減少したが、3年度入学生は回復し、ここ数年で最も多い。

2年度から授業料アップしたことや県内高校生の生徒数の減少等があるが、入学生

の確保に益々努めなければならない。

② 今後の改善方策

- 高校生の使用頻度の高いツールとして LINE があげられ、本校も高校生個人にダイレクトで双方向の連絡ができる「LINE 公式アカウント」を設定した。
- 本校は県内唯一の調理製菓の専門学校であるため、県内の高校との繋がりを更に強化し、本校の持つ使命を高校にも理解してもらう必要がある。
具体的な方策として、体験入学のメニューやその時期を更に検討する。
- アフターコロナをにらみ、高校への出前授業の強化や本校施設を利用した高校の調理講習会等を計画し、本校への理解を深めていただく。
- 社会人を対象とした体験入学や説明会をニーズに合わせた時期に開催する。

③ 特記事項

○本年度の体験入学の状況 【】内は昨年度

第 1 回 (5/9) : 中止 【(5/11) : 9 人】	第 2 回 (5/23 : 中止) 【(5/25) : 22 人】
第 3 回 (6/6) : 8 人 【(6/8) : 10 人】	第 4 回 (6/20) : 10 人 【(6/22) : 10 人】
第 5 回 (7/4) : 17 人 【(7/13) : 20 人】	第 6 回 (7/18) : 32 人 【(7/27 台風)】
第 7 回 (8/3) : 19 人 【(8/7) : 40 人】	第 8 回 (8/19) : 18 人 【(8/24) : 44 人】
第 9 回 (9/5) : 39 人 【(9/7) : 30 人】	第 10 回 (9/12) : 38 人 【開催せず】
延べ人数 : 181 人 【185 人】	

○昨年度より開催を 1 回多くしたが、第 1 回、2 回の体験入学は緊急事態宣言下にて、高校が休校になったことにより中止とした。9 月の 2 回は、入試説明会を兼ねて開催。盛況であった。結果的に昨年度より開催回数を増やしておいてよかった。

○高校生対象ガイダンスへの参加回数

54 回 (体験型ガイダンス 4 回、面接型ガイダンス 42 回、講義型 8 回)

昨年度 116 回 (体験型ガイダンス 13 回、面接型ガイダンス 96 回 講義型 7)

○コロナ感染症拡大のため、前期開催予定の外部ガイダンスの多くは中止、延期になった。

(8) 財務

評価項目	自己評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
・財政について会計監査が適正に行われているか。	4
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4

① 課題等

○学生数の減少により、本校のみの財政面は若干苦しい面があるが、学園全体としては、安定しているといえる。

② 今後の改善方策

○岐阜調理専門学校単独で財政的に課題がないように、今後も学生募集に努める。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	自己評価
・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4
・自己評価結果を公開しているか。	4

① 課題等

○専門学校としての使命を持って適切な法令の遵守を行っている。特に問題なし。

② 今後の改善方策

○個人情報の管理については機会を通して職員に周知徹底していく。

③ 特記事項

○自己評価は公開済み。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	自己評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	2
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。	3
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	2

① 課題等

○本校は岐阜駅構内に学校があり、必要最低限の施設設備で授業を展開している。また、専門科の教員も余裕がない。そのため、もっと社会貢献や地域貢献ができる新規事業を考えていきたいが、現実はなかなか難しい。

② 特記事項

○特になし。

4 総合的な自己評価結果

評 価 基 準
適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

評価項目	評価となる観点	評価値
0 本年度定めた重点的に取り組む事項について	・社会人としての基本的な生活習慣の確立 ・技術検定の充実と指導の徹底 ・資格指導の充実 ・学生募集	4
1 教育理念・目標に関して	・学校の理念・目的・育成人材像が明確で、社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想が抱かれているか。また、そのことが学生・保護者等に周知されているか。 ・学校の教育目標、育成人材像等が業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4
2 学校運営に関して	・運営方針が策定され、それに沿った事業計画がなされているか。 ・人事、給与規定が整備され、業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 ・教育活動に関する情報公開が適切にされており、情報化による業務の効率化が図られているか。	3
3 教育活動に関して	・教育理念に沿った、教育課程の編成がなされ、業界のニーズを踏まえた教育レベルや学習時間の確保はされているか。 ・実践的な職業活動の視点に立った教育方法の工夫や、業界の関係団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直しがされているか。 ・教育目標を達成するための教員確保がなされ、能力開発のための研修等が行われているか。	4
4 学修成果に関して	・就職率の向上、資格取得の向上、退学率の低減が図られているか。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価をしているか。	3

5 学生支援に関して	・就職に関する支援体制、学生相談に関する体制、学生の経済的な支援体制等が配慮されているか。 ・学生の生活環境への支援が行われ、保護者との連携は適切に行われているか。 ・社会のニーズを踏まえた教育環境の整備がされているか。 ・高校・専修学校との連携によるキャリア教育の取組が行われているか。	4
6 教育環境に関して	・教育活動に関する施設・設備が十分であり、海外研修等についても十分な教育体制がなされているか。 ・防災や衛生管理に対する体制や整備がなされているか。	4
7 学生の受け入れ募集に関して	・学生募集活動は適正に行われ、学納金は妥当なものか。	3
8 財務に関して	・学校の財政基盤が安定しており、予算・収支計画は妥当であるか。 ・会計監査が適切になされ、財務情報公開の体制整備はできているか。	4
9 法令等の遵守に関して	・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報が適正に保護されているか。 ・自己評価を実施し問題の解決をするとともに、自己評価結果を公開しているか。	4
10 社会貢献・地域貢献に関して	・学校の教育資源や施設を活用して社会貢献や地域貢献を行っているか。 ・学生のボランティア活動を奨励、支援し、地域に関する公開講座等を積極的に実施しているか。	2

★本年度定めた本校が重点的に取り組む事項に対する成果と課題等（再掲あり）

（１）社会人としての基本的な生活習慣の確立

- 「挨拶ファースト」（授業においては開始・終了時の挨拶の励行、職員室・教室入室時、対外来者）

→昨年度は「あのさー」と言いながら職員室に入室し、いすに座っている場面が多くあったが、その都度の指導により生徒の姿は格段に良くなったと考えられる。

- 遅刻指導の徹底 家庭連絡の徹底と全職員共有

→１０分程度の遅刻が多いが、当該生徒は固定しており、本人の社会性の欠如が原因と思われる。社会に出た時のことをイメージさせ、粘り強く指導をしていく。

- 掃除指導の徹底

→本校は調理専門学校であるので特に「衛生管理」については重要視している。

日々の実習後の実習室・設備等の掃除は徹底しているし、技術検定の評価項目にも入れている。玄関からロビーにかけても、細かく清掃をしている。

外来者からは、大変きれいだとのことのお言葉もいただいている。

ただし、教室の整理整頓には課題が残り、放課後担任を中心に見回りをし、翌朝の指導につなげている。

（２）新型コロナウイルス感染症への対応（詳細は自己評価報告書３・４ページ参照）

- カリキュラム、年間指導計画の柔軟な対応

- 施設設備の対応

- 生徒の健康管理

- 調理実習の在り方

- 職員と職場の健康管理と安全

- 外来者への対応

（３）技術検定の充実と指導の徹底

- 和食、洋食、中華、製菓の評価基準の明確化と検定の指導方法の改善

基準を明確にし、生徒がどこを直せばよいか分かるような指導とした。

検定に関して、具体的には本校では基礎検定として和食、洋食、中華の３つの検定があり、それぞれ３項目ずつ行っている。（製菓は４項目）

全調協実技検定を参考に評価基準を作成、生徒の技術目標も明確化され、指導もしやすくなった。

（４）資格指導の充実

- ２年養成科（製菓調理コース）の製菓衛生師の合格率アップ

- 全ての検定に全員合格を目指す。

▶ ２年養成科２年

・製菓衛生師試験 35/36 (合格者数/受験者数) 昨年度実績: 20/22

・フードコーディネーター3級試験 36/36 昨年度実績: 22/22

▶ 2年養成科2年、1年養成科

・食育インストラクター試験 58/59 昨年度実績: 43/44

・技術考査試験 54/56 昨年度実績 38 /43

全員が合格するという雰囲気はあった。

(5) 学生募集

○体験入学募集にSNSの導入(LINEの友達機能による)

→すでに稼働

○学校ガイダンスの充実

→ガイダンスはコロナ感染症拡大のため、多くが中止、延期になったが、本年度は入学希望者は増加した。進路担当の先生と連携を深めたことがその要因の一つと考えられるので今後も継続したい。

→ガイダンス開催回数: 54回(体験型4回、面接型42回、講義型8回)

高校での体験型減少、面接型半減

高校へ出前授業の形として、好評を得ていたが、コロナ渦の中では、高校から断りの連絡が多数あった。

→グループ校である啓晴高校の「上級学校との連携」を本年度も開催

9/29、10/9、10/27 1年生(本校独自)

今後も高等学校との連携強化(出前授業の充実、生徒の体験講座の充実)は必要

○体験入学の中身の検討と学生・保護者個別相談会の実施(自己評価報告書 p11 参照)

→体験学習の回数を昨年度比で1回増やした。

メニューも、楽しく調理できるように工夫した。

→本校進学に関する個別の相談については、毎回行ったが、特に9月5、12日は全体説明会とし、盛況であった。